



快進撃を続けた1987年チーム・4年生10人の卒部時の写真。本人は下段の右端

「ジャイアントキリングを再び」

おおこし まさゆき
大越 政幸氏
 (紅忠スチール社長)

我が母校、慶應義塾大学体育会サッカー部にとって1987年は特別な1年だった。関東2部リーグに復帰直後、東西大学王座に付き、早慶戦では11年ぶりの勝利。秋にはリーグ優勝して入替戦も制して、12年ぶりに1部リーグ復帰を果たした。なぜ強豪大学を次々と撃破できたのかを振り返ると、人材確保・育成を担う「技術強化委員会」の発足、徹底して選手の個性を生かしたチーム戦術、そして我々4年生10人が各々の責任分野を120%やり切った事が快進撃を支えた。「商社に入社して36年。いつも87年のチームを目指してきた。特に後塵を拝していたインドで、現地大手メーカー・J S Wスチールと合併のcoilセンター設立に全力を注いだ事は一番印象に残る仕事だった」と振り返る。(昭和39年8月13日生)

